



武家屋敷通りに残る歴史的なたたずまい

山際周辺地区のまちづくりが本格的に始まります

城山のふもとにある山際周辺地区。城下町のたたずまいを色濃く残すこの地区一帯で、歴史的な景観を生かしたまちづくりが、今動き出そうとしています。

これまでの歩み

市は、平成十四年度から、国の「まちづくり総合支援事業（以下「まち総」）を受け、旧佐伯市の仲町周辺や大手前といった中心市街地のまちづくりを進めてきました（「まち総」は、平成十六年度から、「まちづくり交付金事業（以下「まち交」）に制度変更しました。

城山のふもとにある山際周辺地区でも、「まち交」によるまちづくりが進められ、行政と地元の皆さんが一体となって話し合いを重ねてきました。その結果、武家屋敷通りを中心とした歴史的な景観を保存しつつ、まちづくりを進めることの必要性が、課題として浮きぼりになりました。しかし、現行の「まち交」だけでは、景観の保存まで手が回りません。そこで、「まち交」と併せて、「街なみ環境整備事業」の適用を図るため、基本構想をまとめ、今年の二月に国



山際周辺地区のまちづくり協議会の様子

に申請。翌三月に採択を受け、今年度から本格的にまちづくりが始まることとなりました。街なみ環境整備事業とは、歴史的な景観の残る地区内に住む人が、門や塀等の移設や住宅等改修を行う際、助成を受けることができる事業です。県内では、臼杵市や竹田市などが、この事業を受けてまちづくりを進めています。

まちづくりの基本姿勢

佐伯市のまちづくりを進めるうえで、城下町という視点での整備はかかせません。とりわけ、山際周辺地区は、歴史的なたたずまいが今も残る空間として、市民の皆さんの関心が集まります。新佐伯市の象徴として、その重要性を十分理解し、まちづくりを進めていかなければなりません。

しかし、一方で、地元の皆さんが暮らす「生活の場」であることには変わりありません。そのことを踏まえ、訪れる人にこの地の良さを楽しんでもらう「おもてなしの場」との調和点、一致点を求めることが、山際周辺地区のまちづくりの基本姿勢です。

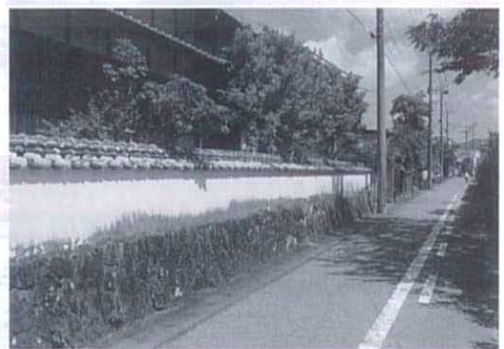
まちづくりの目標

「景観を堪能し」、「山際」らしい出会い・ふれあい^{たんのう}が体験できる場となること」が、まちづくりの目標です。

『山際らしい体験』とは、感動と安らぎの同居であり、心を打つ本物の自然と本物の歴史との出会いです。

五つの整備方針

まちづくりの目標を達成させるため、特に重要と思われる整備方針は次の五つです。



これからのまちづくりが楽しみです

- 一、山際周辺地区の景観に配慮したモノづくり。
- 二、住民生活の場やおもてなしの場づくりへの創意工夫を促す。
- 三、山際周辺散策を楽しく、滑らかに。
- 四、今ある資源を最大限活かす。
- 五、隣接地区、とりわけ大手前地区との役割分担を図る。

◆山際周辺地区のまちづくり基本構想についての詳しい内容は、商工地域振興課で公表するとともに、佐伯市ホームページで近々公開予定です。

《問い合わせ》

商工地域振興課中心市街地活性化係（市役所第3庁舎1階、☎03943）